

全久院報

松本市深志3-7-50 電話 0263-36-3211

今年の上半期は・・・

今年も除夜の鐘撞きで新年を迎えました。子供連れの家族が何組も来ていただきました。今年もいい年で！と思ったら、もう半年が過ぎました。



昨年暮れより長野県第二宗務所所長の役に付きましたが、管内寺院の晋山式への出席、宗務庁や北信越管区の行事や会議への参加、宗務所内の布教師会・法式研究会・ご詠歌の師範会・テレホン法話委員会・青年会・寺族会・婦人会への対応、宗務所独自の研修会やご詠歌の検定の運営等様々な業務に対応しています。副住職も上記の諸行事の運営のための事務手続きや、僧侶の資格申請などの事務手続きなど日々業務をこなしています。半年がたち何とか業務のリズムを掴んできたように思います。まだまだ勉強しなくてはならないことがあります。気を引き締めて宗務所行政に当たります。全久院檀信徒の皆様への檀務に師匠が起きないよう努めてまいりますので、引き続きご協力お願いいたします。

また、庫裡の南側の駐車場を整地して、副住職の住居を建てる準備ですが、今年に入りようやく青線を松本市から買い取ることができました。副住職と山田工務店との設計施工の詰めが完了し次第工事を始めます。

残りの半年副住職、大黒ともども精進してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

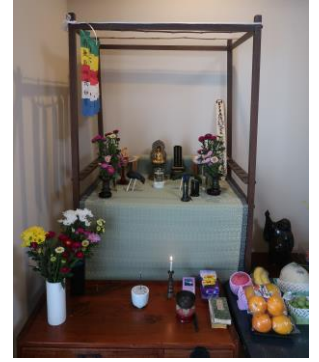
お盆参りのお知らせ

お盆のお参りの予定を次の表にしましたのでご覧いただき、ご準備をお願いします。本年も副住職俊浩が松本市の北半分を回り、私が南半分を回ります。毎日80軒前後の軒数を回ります。朝7時半から夕方7時ころまで回ります。事前にお配りする、五色の旗を入れた案内の封筒に記入した期日と時間どおりにお参りがなかった場合は、電話などでお問い合わせください。今年の予定は下記の表のとおりです。

8月	副住職の回る範囲	住職の回る範囲
10日	安曇、明科、麻績など超遠方に同行	安曇、明科、麻績など超遠方
11日	並柳、寿、塩尻、村井、平田、など市外南部	笹部、征矢野、南原、石芝、二子、神林、笹賀
12日	筑摩、神田、惣社、山辺、清水、横田、など市外北部	石芝、高宮、南松本、荒井、新村、波田、岡田、桐、沢村、蟻ヶ崎、城山など
13日	源地、日ノ出町、県、西小松、清水、四谷、女鳥羽、下横田など市内北東部	宮村、埋橋、庄内、東中条、豊田町、南新町、井川城、など市内南部
14日	裏町、片端、下横田、女鳥羽、旭町、元町、横田、美須々、浅間、北深志、沢村、田町、など市内北西部	鎌田、本庄、博労町、天神、宮村、中町、小池町、飯田町、本町、新橋、島内、蛇原、
15日	上土、六九、西堀、城西、宮渕、城山、留守だったお宅、	白板、渚、巾上、伊勢町、国分町、留守だったお宅
16日	留守だったお宅	留守だったお宅

盆棚の飾り方

お仏壇はご先祖様を祀るばかりでなく、仏様の世界、須弥山（しゅみせん）を表しています。仏教の始まったインドの人々にとっては孤高で白雪を頂くヒマラヤ山脈の峰々は、神聖な場所として信仰の対象となっていました。お釈迦様が説かれた仏さまの住まう須弥山はきっとこのヒマラヤの山々をイメージしたものであったのでしょう。私たちの祖先がお盆の間住まう場所を須弥山に見立てて作られたのが盆棚です。その飾り方はそれぞれの家によってみな違いますので、ご先祖様が代々伝えてきた飾り方を大切にしてください。右の写真は、松本地方で昔から飾られてきた盆棚です。ご先祖様から受け継いだ棚を大切に現在まで継承してくださっているご家庭もあります。また下記に一般的な飾り方を示しますので、飾り方の不明な部分はどうぞ参考にしてください。



1、棚を作る場合（写真参照）

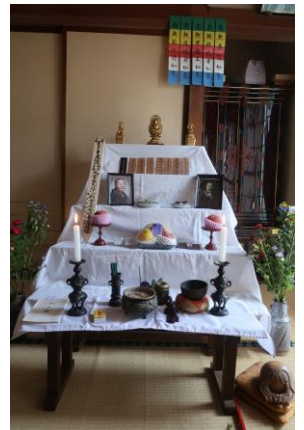
上の段に本尊様、（本尊様は仏壇の中に入れ、盆中は扉を閉じておくというお宅もあります。その家のやり方を尊重してください。）お位牌、塔婆を奉る。お位牌は古い順に、向かって右へ、新しいものは左へお祀りします。2段目には供物をお供えします。お供物には二種類あります。水（お茶）、食（お膳、果物、菓子、嗜好品）などです。3段目に過去帳、花、燭台、線香立て、鐘、マッチや火消しや線香入れなどの道具をおきます。

2、仏壇を使う場合

仏壇は常のとおり祀る。手前に経机や机を出すお宅は机の上に、経机を出さず引き棚を使うお宅はその上に棚の3段目に飾る過去帳や花や鐘などを飾る。その他灯笼や飾り花、いただいた供物などは写真のとおり適所に飾る。

3、またお寺が配る五色の盆旗は、写真のように広げて糸などを通して吊るか、棚に広げておいてください。

初めにも書きましたが、こうでなくてはいけない、ということはありません。先祖様をお迎えするという気持ちをこめて、その家に伝わった仕方で飾っていただくのが大切なことと思います。



宗務所長の務め

前号でお知らせしたとおり、曹洞宗の中南信地区を統括する宗務所という組織があります。昨年12月にその所長を拝命することになり、活動を開始しました。いろいろな勤めがありますので、皆様にご紹介したいと思います。

右の写真は辞令を渡しているところです。私も十数年前行いました、住職になる式、晋山式での一番初めの法要です。宗務庁から発令された住職辞令を新命和尚様に手渡す役を所長が果たします。所長になってから2回晋山式がありました。麻績と伊那の高遠のお寺様に出向きました。自分の晋山式での辞令授受を思い出し身が引き締まる思いでした。役職に溺れず常に初心に帰ってこの任に当たりたいと思っています。



全久院の集い

座禅会 ……「従容録」第61則 乾峰一画(けんぼういっかく)……

この章では「直説(じきせつ)」と「曲説」という正反対な教え方が説かれます。この章から外れますが、興味深い説話がありますのでこちらをお話しします。

千年ほど前の中国、瀟山大師と香巖和尚の話です。瀟山「お前は千経万論に通じているが父母未生以前に向かって一句言え」香巖は答えられず「お教えてください」瀟山は「話すのは容易だが、後に俺を憎む。それを説けば耳について理屈ばかり覚えて本当の悟りができなくなる」香巖はのちに竹の声を聴き悟った。袈裟を付け瀟山の居る寺の方向に向かいお拝をした。

瀟山は「父母が生まれる以前の本質は何か」と弟子の香巖和尚に聞いたのですが、答えられずにいる弟子に上記のとおり答えた。という話です。「曲説」は丁寧に分かりやすいように説くことを言います。が一度耳に入って理解してしまった理屈は先入観になって邪魔をしてしまうということを示します。「直説」は全体を事細かく説かず、いかにも不親切のようだが、先入観にならず、悟りを邪魔することがない。半分くらい言って、後は響きを聞かせる教え方です。禅の教えは僧堂という修行道場で日常の生活を共にしながら生活しています。師匠は弟子がどんな生活をし、どんな学びをし、どんな修行をしているか肌で感じています。そのうえでの「直説」です。禅は分別、つまり頭だけの理解では足りないと言います。毎日の呼吸に至るまでの共なる生活で、分別無しで分かり合う、体全体の悟りを大切にします。

現在は事細かに説明責任を果たさなくてはなりません、職人に技を伝授するときにはやはり「直説」が残っています。現在は「直説」と「曲説」を使い分けられないといけません。

観音講 3月の観音講で毎年恒例になった「ヤショウマ」作りを行いました。2月の観音講で作り方を確認して、何をどう作るかそれぞれに考えてきていただいた結果が左の写真です。本年の成果は「みかん」「椿」などです。だいぶ皆さん腕を上げてきたかと思えます。いかがでしょうか？言われればそう見える程度でしょうか。



観音講の皆さんが集まる前に住職と副住職が米粉を蒸かして団子状のものを作り、観音講の皆さんは色粉を混ぜて練るところから始めてもらいます。細い円柱状にして、それを組み合わせて形を作ってゆきます。一番のかなめは、形作る色のついた棒を、切り口を想像して白い生地を棒状に挟み込むことです。何色かの棒を白い生地で包み込みますので、太い金太郎飴のようになります。それを細く伸ばします。その時捻じれが生じて考えていた模様とはかけ離れた模様になって出来上がります。笑いに満ちたヤショウマ作りでした。

ご詠歌 5月26日(日)に開催された松本仏教和合会の「お花まつり」にてご詠歌の奉詠を行いました。右の写真の松尾さんが右下、吉川さんと轟さんが左上の段で並んでお唱えいただきました。曹洞宗寺院の他の梅花講の皆様との合同の奉詠でした。例年の「釈尊花祭御和讃」をお唱えしました。もともと松本仏教和合会は日露戦争の戦没者の慰霊のために、松本市中の各宗派の寺院が集まって組織されたものですので、「慰霊」を大切にします。ご詠歌は浄土宗の皆さんもお唱えいただいています。中には舞を伴うご詠歌もあり、他宗派のご詠歌も聞く機会がありご詠歌の知識を増やすことができます。



茶道コーナー

・・・初釜・・・

1月14日（月・成人の日）毎年恒例の初釜を行いました。全久院の茶道部はお弟子さんの会を「即心会」という名で呼んでいます。現在40名ほど登録されています。この皆さんが一年の稽古始めに集まり、住職と副住職の点てる濃茶と薄茶を味わっていただき、会席料理を賞味してもらうという行事です。



正月初めの茶会ですので、正月にふさわしい飾りつけをします。副住職の後ろに金色の風炉先屏風を立てます。その前に紹鷗棚を置きます。紹鷗は利休様の先生武野紹鷗が考案した棚です。室町時代中国から輸入された器を日本風に受け入れて使い始めました。やがて茶道が日本独自のものとして文化を創造し始めました。抹茶をすくう茶杓は中国では薬をすくう道具でした。それを茶道として取り込み、その形を日本の味わいを生かせるように変化させたのが武野紹鷗です。その流れをさらに突き詰めたのが千利休です。その創成期の道具を正月の新たまった設えとして飾ります。日本の文化には長い歴史の中で育まれた深みがあります。まだまだ勉強しなくてはなりません。どこまで行ってもその深さを味わい尽くすことはできません。



今年の会席料理も以前「嵯峨野」という会席料理の店をやっていた武田さんに腕を振るっていただき茶事の形式で行いました。茶事では懐石盆に飯・汁・向付け、酒を入れた銚子と杯、煮物碗（にもものわん）、焼き物、強肴（しいざかな）、一口吸、八寸、湯次と香の物という順番

で、2時間をかけて頂戴します。左の写真は強肴です。親方が正月らしい晴れやかな取り合わせで作っていただきました。いただくお酒のおいしいこと！それぞれにいただく作法があり、その作法に従って食べたり、酒を頂いたりします。作法が気になって懐石の深い味わいを感じるころではない、ではまだまだです。ただ点前を覚えるだけの稽古から一步踏み出した稽古ができるように、さらにお客様との会話や料理の味を楽しめるような、余裕を持った心で茶事ができるように知識を増やすとともに自分を高めていきたいと思えます。

葬儀や法事に全久院をご利用ください！

最近では仏教寺院をめぐる問題が多くマスコミに取り上げられます。とくに大手企業がネットを使って集客したり、葬儀や法事を委託する動きが出てきました。

最近では「家族葬」が流行ってきました。企業は何かと「売り物、商品」を作るために名前を付けたがるものだと感じます。「家族葬」と命名したのも企業で、以前はありませんでした。この欠点は生前付き合いのあった方がお線香をあげて供養したいのに、それを拒否します。ですから、葬儀が終わった後に自宅へお参りに来ます。ひと月たってもお参りの方が来てくださるのは有難いけれど、その対応が大変でした、と多くの皆さんから聞きました。

また「式場で家族葬を行った。家族だけなので10人ほどでの葬儀でした。請求書が来てビックリ。100万円程の請求額でした。香典もないわけだから、全部持ち出し。大変でした。」

企業は経済活動ですからそれなりに費用は計算されます。前号にも書きましたが、イオンが「直葬 198,000円」の商売を始めました。便利で都合の良いことにはそれなりの費用が掛かります。前もって見積もりを取ることをお勧めします。

「家族葬」に戻りますが、これは業者が作り出した商品名です。まだまだ人情の残る松本には似合いませんし、不具合が伴います。いたずらに大きな葬儀をする必要はありませんが、知らせるべき人には知らせ、お別れをしてもらうことが必要と考えますし、その方が後々きちんと形や心が整います。その為にも全久院がどう対応してゆくかしっかり考えてまいります。全久院に対して檀家の皆さんが何を望んでいるのか把握して、それに対応できる体制を作ってゆきたいと考えています。ちなみに家庭の事情で葬儀の費用が捻出できないとおっしゃる檀家の方に、これ以下の金額で葬儀を行ったこともありますので、どうぞ相談ください。

なお、全久院での葬儀とお考えの方は、ことの葉（前ヒラバヤシ生花店）（電話32-8722）かメモリアルライフ信州（電話40-7745）の葬儀社をお勧めしています。行政などへの手続きや、花や供物の発注、葬儀の内容や「あとふき」など、みな業者がやってくれます。

葬儀や法事は宗教的な儀式ですから、寺という場所でなければ、その儀式を行う意味が薄れます。また経済的な面も考慮してお寺を使っていたいだきたいと思えます。正座をしなくていいようにイスを用意しました。駐車場の確保、など以前よりは便利になってきています。いざという時に慌てぬよう、自分の葬儀の仕方を住職と相談しておくことをお勧めします。

大黒コーナー … オペラ ノルマ…

5月4日、
まつもと市民

芸術館にてオペラを楽しむ会 第7回公演、オペラ「ノルマ」を開催しました。550人のお客様が鑑賞してくださいました。出演者や裏方総勢105名が充実した公演ができたと自負しております。

ソプラノ歌手にとって一番難易度の高い役が「ノルマ」と言われています。また、巫女長ノルマ自身がローマ時代を迎えるイタリア半島で、民族や宗教の違う敵の将軍と愛し合い、生まれた子供を育てるといふ難しい感情表現を迫られます。心の底に戦いを望まない、“平和の象徴”を表現し演じ切る役柄だと考えました。周りが戦争へ向かう中、一人孤立しながらも平和を願い、さらに、恋人への愛憎、子供への愛おしさ、自ら火刑台に向かう気持ちを精一杯表現したつもりです。オーケストラもメンバーどおしが紹介しあって、30人程になり、一人一人が厚い音を出してくださり、心地よいハーモニーを奏でてくださいました。演奏が終わり帰りのお客様にロビーで挨拶をしますと、「素晴らしかったわよ。実力上げたわね。」「初めてオペラを見ましたが、とても素晴らしかったから次回は友達を誘います。」などと声をかけてくださる方もあり嬉しい限りです。地方の方が主役となりオペラを創り上げ、それが出演者・観客ともども楽しみになっていることは喜びです。意義あることを多くの方と作り上げていると感じました。「オペラを楽しむ会」の公演を楽しみに待ってくださっている方が増えますよう、試行錯誤を繰り返して、目標に向かって邁進していく覚悟ですので、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。



掲示板（皆様のご参加お待ちしております）

～施食会～

8月5日(月) 12時より自家製によるお弁当、12時半より講演、13時より観音講や合唱部の皆さんと一緒に懐かしい唱歌の合唱、14時より法要(ご詠歌の会の皆様による奉詠)、15時よりお塔婆を配ります。また恒例になりましたバザーを行いたいと思います。タオル・シーツ・ふとん・食器・石鹸などたくさんの品があります。持ち帰るのに便利な風呂敷や紙袋など持ち寄ってお越してください。かなり良い品がありますので是非ご協力ください。そのほか皆さんにお参りいただけるような内容をと考えています。ぜひご参加ください。

．．． 座禅会 ．．．

9月14日(土)・10月12日(土)・11月16日(土)・12月14日(土) お粥と精進料理。
以上が下半期の日程です。毎回夕方4時集合、4時40分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、5時45分頃まで座禅、6時まで茶話会という予定で行います。12月14日はお粥と精進料理を経験していただきます。座禅を経験していただくだけでなく、ものの見方や生き方を豊かにすることができると思います。ぜひご参加ください。

．．． ご詠歌会 ．．．

9月11日(水)・10月9日(水)・11月27日(水)・12月11日(水)
午前10時半より12時まで、白板 東昌寺住職 飯島恵道師にご指導いただきます。一緒にいかがですか。また、ご詠歌を始めたいという方に大黒が初心者コースを始める計画をしています。ご希望の方はぜひご連絡ください。上記とは違う日程を組みたいと思います。

．．． 観音講 ．．．

毎月17日10時から12時半まで行います。ただし、10月17日(木)は奈川の「仙洛」への小旅行の予定です。恒例の観音講の内容は10時から観音様にお勤め、10時20分からご詠歌、10時50分から大黒の指導で唱歌の合唱11時20分より食事という日程です。現在15人ほどの参加者があります。気よりも良く60代から90代の方が元気に集まってきます。気楽な会ですのでぜひご参加ください。

．．． 歌の会 ．．．

9月4日(水)・9月18日(水)・10月2日(水)・10月16日(水)・11月6日(水)・11月20日(水)・12月4日(水)・12月18日(水)
午前10時より12時まで、お茶休憩をはさみ大黒が指導します。発声練習をして、唱歌、童謡、懐かしい曲など一緒にいかがですか。また、ハーモニーを付ける曲もあります。他の催しへの参加なども企画しています。音楽を通した楽しい友達もできますよ。お待ちしております。

．．． 全久院ホームページ ．．．

<https://zenkyuin.or.jp/>

全久院ではホームページオを開設しています。「全久院報」をネットで見ただけのようにしてあります。管理をしてくれている檀家の丸山耕一さんと親しみやすいものにしてゆきたいと思います。また、皆様と意見や情報を交換できる場に育てて生きたいと思います。ぜひ一度開いて見てご意見ください。